

# **ArcPad 8 新機能ガイド**

---

## 主な特徴

### ■ 新しいユーザ インタフェースの外観と操作感

ArcPad 8 は新しい見た目と操作感になり、高解像度のモダンなアイコンとツールバーは以前のバージョンより広いスクリーン スペースを提供します。ツールバーは固定、最小化、または最大化することができ、新しいデスクトップ ツール [ArcPad Toolbar Manager] ではデフォルトのツールバーを変更したり、独自のツールバーを作成することができます。以前の ArcPad の起動ダイアログは、ArcPad マップのリストやサムネイルを閲覧することができる新しい [マップを開く] ダイアログボックスに変わりました。

### ■ 改良された GPS ユーザ インタフェース

GPS ポジション ダイアログ ボックスは新しくGPS ステータスバーとなり、マップスクリーンの下部に半透明なツールバーとして表示されます。以前のポジション ダイアログ ボックスにあったものと同様の詳細情報の表示に加え、視覚的に容易に認識しやすい異なる色で GPS が受信した位置情報の質を示します。また、より詳しい GPS の位置情報をフルスクリーンの複数タブを持つ GPS ダイアログ ボックスに表示することができます。

### ■ ArcPad Data Manager エクステンションの改良

[ArcPad Data Manager] では、ArcPad用にデータを準備する際に多くのオプションを提供します。以前のバージョンのArcPadと同様に、ArcMapはArcPad用のデータを瞬時に出力します。新しいオプション機能によって、ArcPad プロジェクトの構成処理を複数回実行する際にジオプロセッシング ツールを使用し反復処理として一括して実行したり、ArcPad プロジェクトをArcGIS Serverへ公開し、そしてArcPadでサービスを利用できるようにするオーサリング処理を行ったりすることができます。ジオプロセッシングでのArcPad プロジェクトの使用やモバイル デバイスへの展開をサポートするツールが、ArcToolboxのArcPad ツールに追加しました。

### ■ 編集の同期を行うための ArcGIS Server の導入

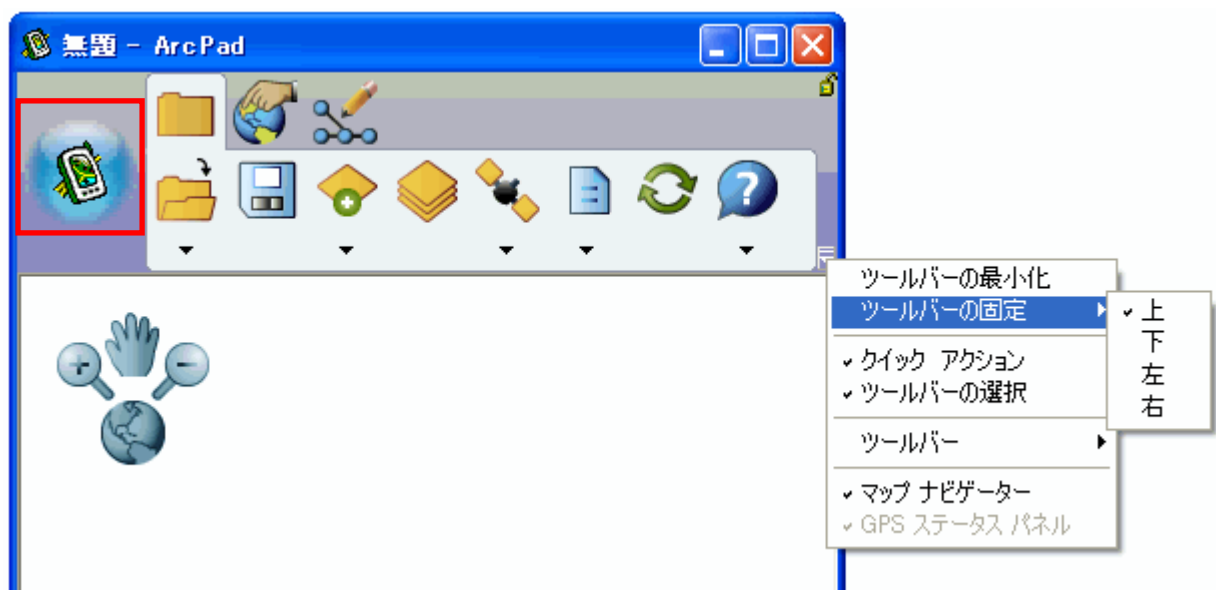
ArcGIS Server ArcPad エクステンションは、ArcPad 8 で使用可能な ArcPad プロジェクトを ArcGIS Server に公開することができます。インターネットへ接続できる(クレードル、USB、Wi-Fi、または電話回線による)デバイスで、ArcPad の編集内容を ArcGIS Server を経由してエンタープライズ ジオデータベースと同期することができます。

# ユーザ インタフェースの改良

## ■ 最新の ArcPad ユーザ インタフェース

バージョンアップをするたびに ArcPad のユーザ インタフェースは改良されてきました。ユーザがより多くのツールを使用することが可能となりましたが、その結果、特に新しいユーザにとってはプログラムが複雑に見えるようになってきました。そして、すべてのツールバーが同時に表示されていると、スクリーンの大部分がツールバーに占有されてしまいます。

新しくデザインされたアイコンにより ArcPad 8 はモダンな印象を与えます。すべてのアイコンは 16 x 16 と 32 x 32 ビットの両解像度から成り、異なるスクリーン解像度を巧みに利用することが可能です。新しいツールバーはスクリーンの少ないスペースだけを占め、ユーザの好みによりツールバーの位置を固定することができます。複数のツールバーはタブ (Toolbar Selector と呼ばれます) として表示されるため、より広いスクリーン スペースがマップ表示のために活用できるようになりました。

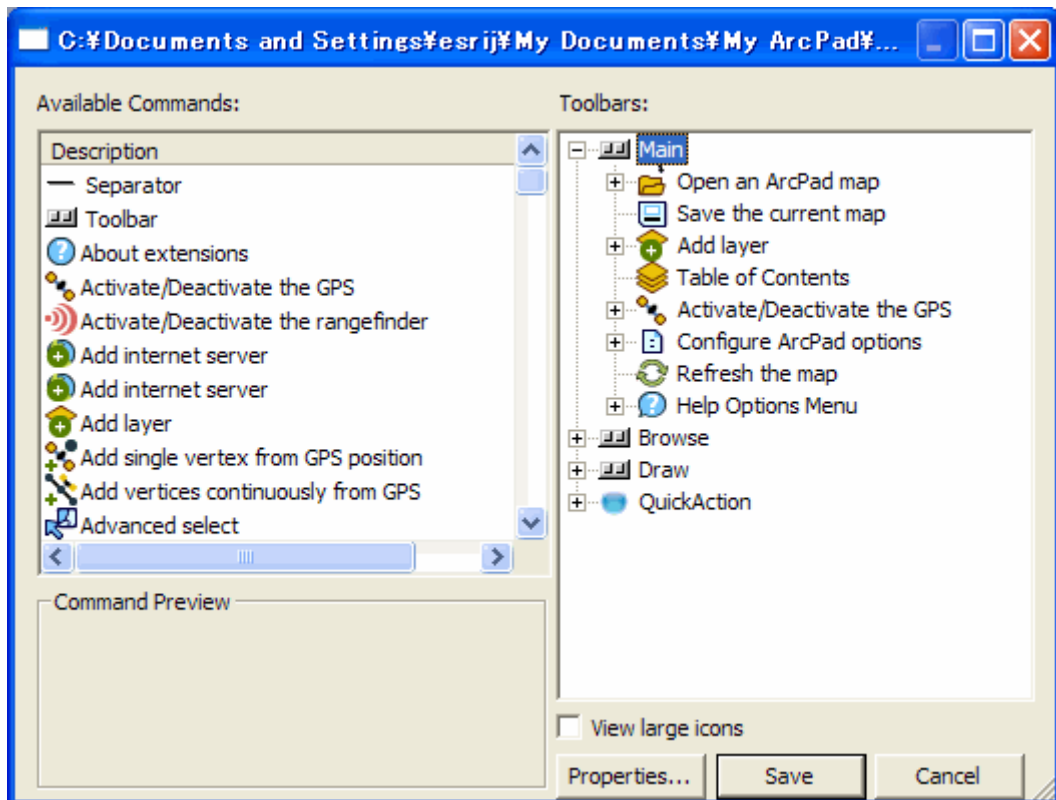


## ■ クイック アクション ボタン/メニュー

上の図の左側にある大きな円形のアイコンが(赤枠)、クイック アクション ボタンです。最も頻繁に使用されるツールのためのショートカットとして使われます。新しい [ArcPad Toolbar Manager] にてカスタマイズすることが可能です。デフォルトでは、クイック アクション ボタンはクイック アクション ツールとなっています。

## ■ ArcPad Toolbar Manager

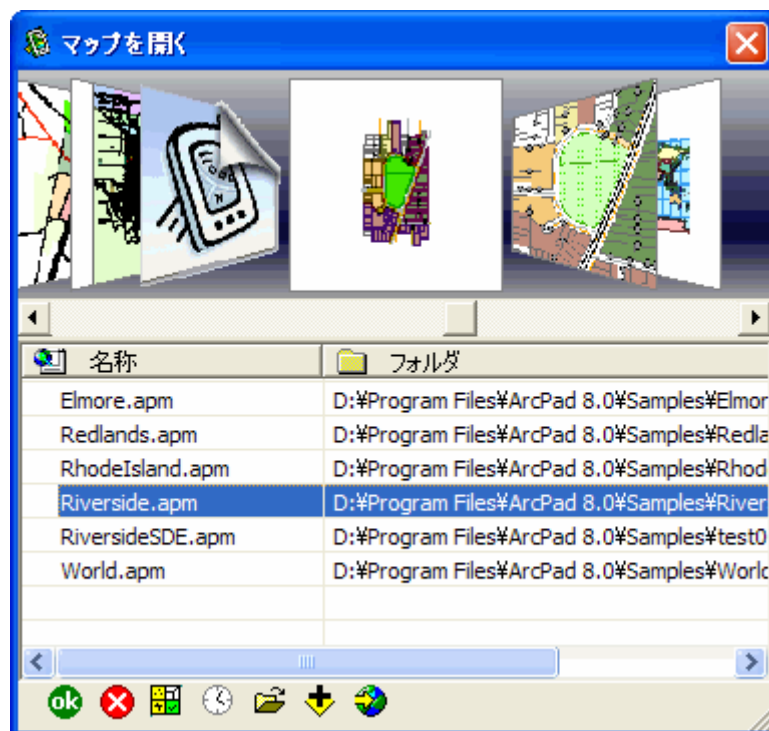
[ArcPad Toolbar Manager] を使用してデフォルトのユーザ インタフェース（ツールバーとメニュー）をカスタマイズすることができます。デフォルトのツールバー レイアウト定義を含むデフォルトの ArcPad.apx ファイルを選択することができます。ArcPad.apx をカスタマイズしたり、独自の.apx ファイルの作成と編集をしてもよいでしょう。



[ArcPad Toolbar Manager] では、ツールバー レイアウトを含む右側のツリービューにツールをドラッグ&ドロップすることができます。クイック アクション ボタンもここでカスタマイズすることが可能です。

## ■ マップを開く ダイアログ ボックス

[マップを開く] ダイアログ ボックスでは、以前に作成したマップ ドキュメントを開くこと、新しいデータの追加、QuickProject ツールの起動などを簡単に操作できます。ArcPad 8 を使用してマップを保存すると、サムネイルが作成されます。ダイアログボックスの最上部にあるサムネイル、または下部にあるタイトルのリストをクリックすることでそれぞれのマップを容易に確認することができます。



## GPS ユーザ インタフェース

### ■ GPS ステータスバー

新しい GPS ステータスバーはマップ スクリーンの下部に表示されます。これは半透明になっていて、すべてのスクリーンを覆うことなく基本的なデータを見ることができます。



ステータスバーの背景色は設定された条件(シグナルのクオリティと警告の表示)によりに変化します。

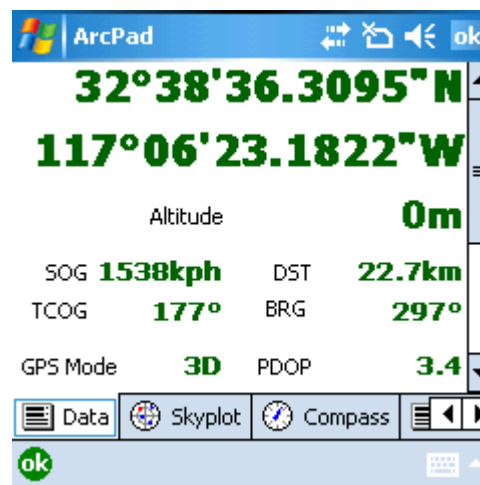
赤はシグナルがないこと、黄色はいくつかの設定条件が満たされていないこと、緑はすべての条件が満たされていることを示します。

多くの詳細情報やステータスバー情報を大きなスクリーンで見られるように、以前の GPS ポジション ウィンドウはモバイル デバイスではフルスクリーンのダイアログ ボックスに、Windows では拡張可能なスクリーンに変更されました。

## ■ GPS ポジション ダイアログ ボックス

GPS ポジション ダイアログ ボックスはデータ、スカイプロット、コンパス、クオリティ、デバックの 5 つのタブがあります。

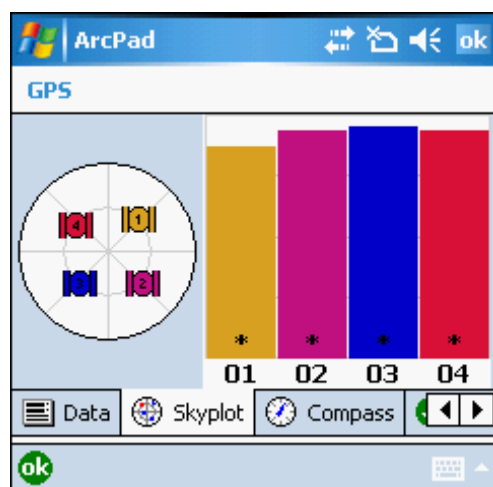
[データ] タブは、水平位、標高、対地速力(SOG)、対地真北路(TCOG)を含むポジション情報を表示します。マップでフィーチャが選択されている場合、現在地からそのフィーチャまでの距離(DST)や方位(BRG)も表示されます。



クオリティの簡単な表示はカスタマイズ可能な GPS モードとシグナル クオリティ パラメータ(デフォルトでは PDOP になっています)と共に [データ] タブに示されます。テキストは色を変更し、GPS ステータス バーの背景色と一致します。

赤はシグナルがないこと、黄色はいくつかの設定条件が満たされていないこと、緑はすべての選好が満たされていることを示します。

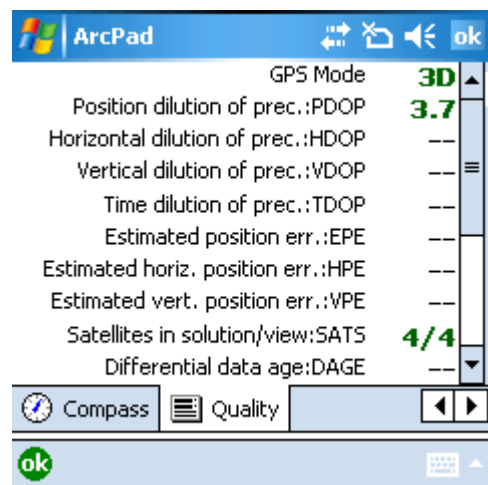
[スカイプロット] タブは衛星スカイプロットと信号強度のバーグラフを表示します。黒い輪郭の衛星は利用可能であり、GPS ポジションの計測に使用されます。利用可能だが使われていない衛星は色付きで示されます。グレーの衛星は使用不可を表します。



[コンパス] タブでは、黒い矢印で方向を指し、そして選択された目的地への方向を赤で表示します。GPS の方向は対地真北路(TCOG)の方向に相当し、目的地への方向は方位(BRG)に相当します。



[クオリティ] タブは利用可能なすべてのクオリティ パラメータを表記します。



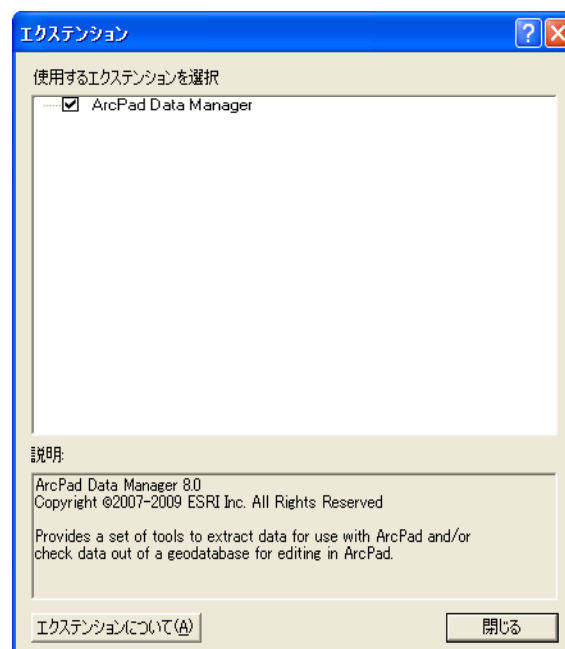
---

# ArcPad Data Manager for ArcGIS Desktop

ArcPad Data Manager は、ArcPad 8 といっしょにインストールされる ArcGIS Desktop 9.3 のエクステンションです。このエクステンションには、ArcMap 上のツールバーと ArcToolbox のツールセットが含まれています。

## ■ ArcMap ツールバー

ArcMap でのツールバーを表示するには、[ArcPad Data Manager] エクステンションが有効になっている必要があります（[ツール] > [エクステンション]）。

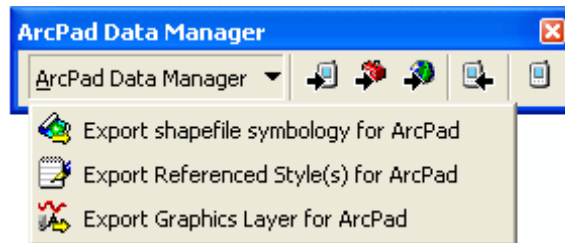


ツールバーは以下のような外観です。



[ArcPad Data Manager] のドロップダウンリストには、以前のバージョンに含まれていた ArcPad 8 でも利用可能なツールが含まれています。[Export shapefile symbology for ArcPad] は、ArcGIS Desktop 上でシェープファイルの表示に利用していたシンボルを ArcPad 上のシェープファイルに適用する際に利用します。[Export Referenced Styles(s) for ArcPad] は、ArcGIS Desktop の特定のスタイルシートを ArcPad 用に準備する際に利用します。[Export Graphics Layer for ArcPad] は、ArcMap のグラフィックス レイヤから、ArcPad 上で開き、編集することが可能な ArcPad グラフィックス レイヤを作成する際に利用します。また、[Get Data For ArcPad] ウィザードからも ArcMap グラフィックス レイヤをエクスポートすることが可能です。




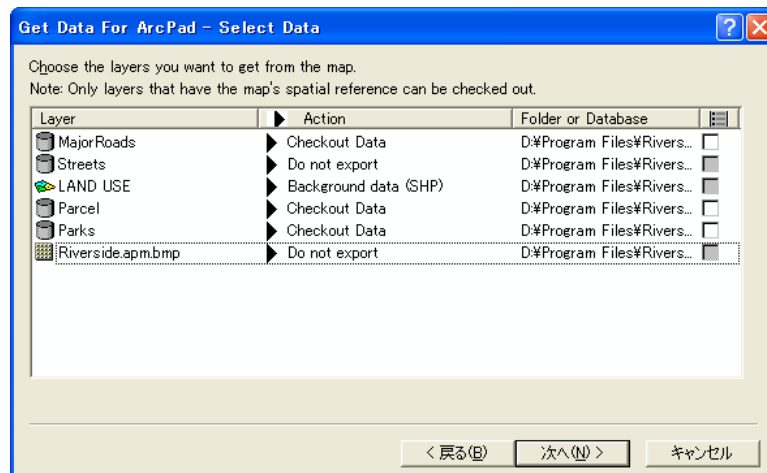


その他、[ArcPad Data Manager] ツールバーに含まれるツールは以下の通りです。

- ☐ Get Data For ArcPad
- ☐ Configure Project for use with Geoprocessing ツール
- ☐ Author ArcPad Project for publication to ArcGIS Server
- ☐ Get Data from ArcPad (ArcPad 7.1から変更なし)
- ☐ Deploy to Mobile Device

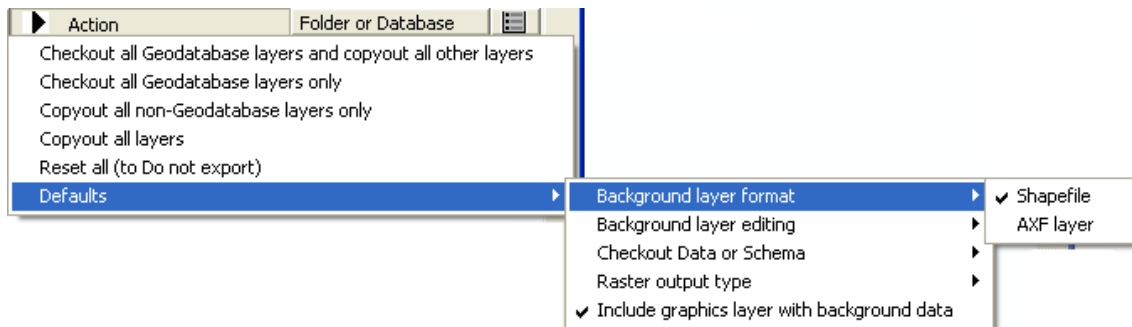
#### • ArcPad 用にデータの生成

[Get Data for ArcPad]  を選択すると以下のウィンドウが表示されます。




ジオデータベース レイヤは、ArcPad 用にチェックアウトし編集することが可能です。シェープファイルは、背景データとして利用するためにArcPad へのコピーが可能です(シェープファイル、またはAXF形式)。グラフィックスも同様にArcPad へのコピーが可能です。


ArcPad 8 では、データのチェックアウト時のオプション機能が増えました。テーブルのタイトルバーにある [Action] をクリックすると、全てのレイヤに対して同時に設定を変更したり、[Get Data for ArcPad] ウィザードのデフォルトの設定を変更したりすることができます。以下の図では、(背景データとして利用するために)コピーされたレイヤは、シェープファイルとしてArcPad にコピーするように選択されています。また、背景レイヤをAXFファイルとしてArcPad 用にコピーすることも可能です。背景レイヤが多い場合は、ひとつのファイルにすべての背景データを格納することができるため、AXFファイルが便利です。



- ジオプロセッシング ツールで使用するためのプロジェクト構築

[Configure Project for Geoprocessing] ボタン  をクリックすると、[Get Data for ArcPad] ウィザードと同じようなダイアログが表示されます。違いは、最終的にデータはマシン上に作成されないことです。データの作成には、ツールボックス内にある新規の [Process ArcPad Project] ツールを使います。このツールは、ArcToolbox から直接利用することもできますし、ModelBuilder によるモデル内で利用することもできます。

- ArcGIS Server へ公開のためのArcPad プロジェクトのオーサリング

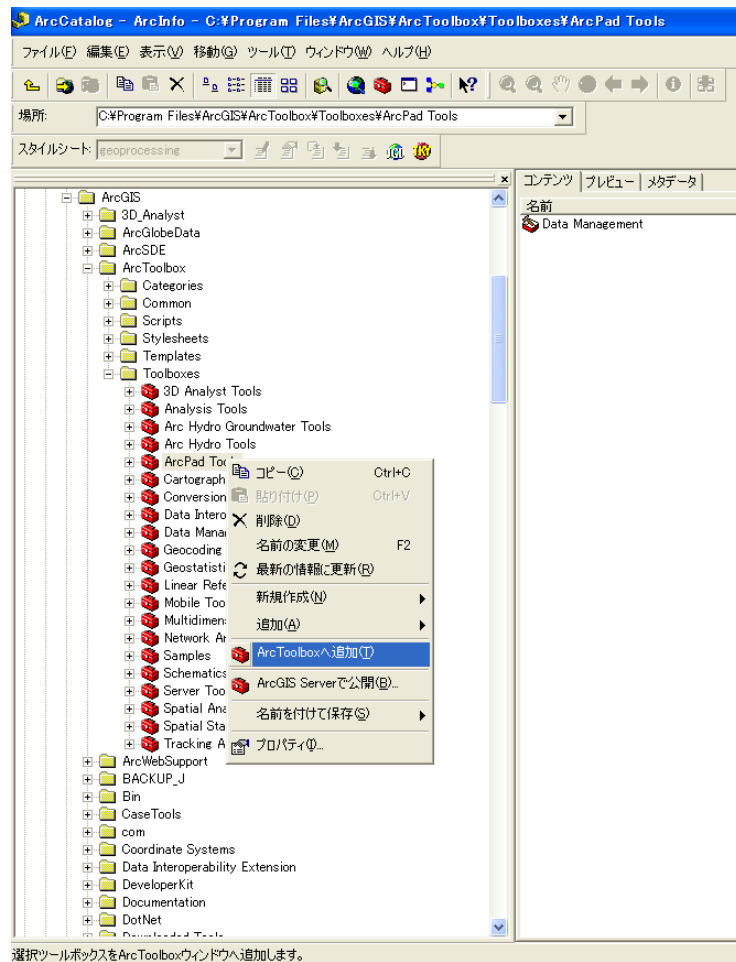
[Author Project for ArcGIS Server] ツール  は、ArcGIS Server への公開のためのコンフィグレーション ファイルの作成に使用します。ArcSDE データベースに格納されたデータのみ、ArcGIS Server に公開することができ、全てのレイヤはグローバルIDを含んでいる必要があります。また、バージョン対応していなければなりません。[Author Project for ArcGIS Server] ツールを選択すると、[Get Data for ArcPad] ウィザードと似たようなダイアログが表示されます。[Configure Project for Geoprocessing] と同様に、最終的に、マシン上にデータは作成されません。データを作成するには、プロジェクトを ArcGIS Server に公開する必要があります。

- モバイル デバイスへの配置

[Deploy to Mobile Device] ツールを選択すると、既存のCABファイルをコピーし、接続されているモバイル デバイスにインストールすることができます。

## ■ ArcToolbox ツール

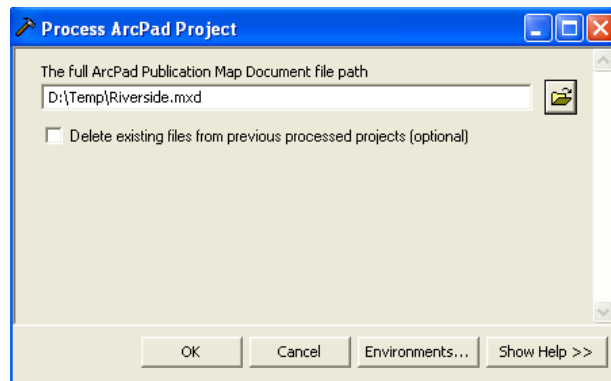
お気に入りのツールボックスを見るには、ArcCatalog を開き、カタログツリーにあるArcToolbox フォルダをクリックします。ツールボックスのサブフォルダの中に、[ArcPad Tools] というツールボックスがあります。このツールボックスを右クリックし [ArcToolboxへ追加] をクリックすると、ArcMap または ArcCatalog を開いた際に [ArcPad Tools] がArcToolbox ウィンドウに表示されます。



ArcPad 7.1 から引き続きある [ArcPad Check In] と [ArcPad Check Out] ツールに加え、[ArcPad Tools] ツールボックスには、[Process ArcPad Project] と [Deploy to Mobile Device] という二つの新しいツールが含まれています。これらのツールの利用方法は、その他の ArcToolbox ツールと同様です。つまり、ジオプロセッシング モデルの一部として加えることも、単体のツールとしても利用することができます。

- ArcPad プロジェクトの処理

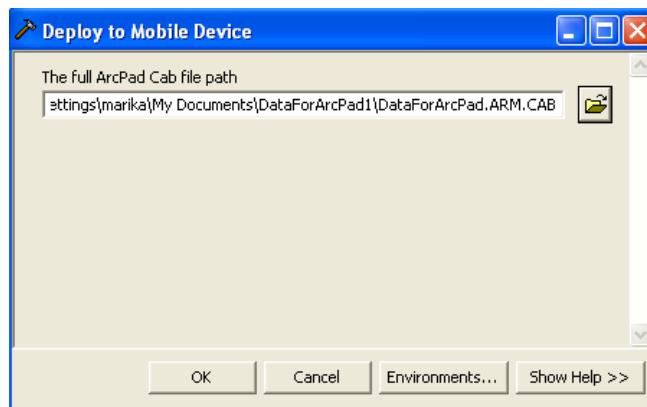
[Process ArcPad Project] ツールは (ArcMap および ArcCatalog の) ArcToolbox から利用することも、モデル内で利用することもできます。ツールを使用するには、マップ ドキュメントを ArcMap のジオプロセッシングで利用できるように設定しておく必要があります。ツールのダイアログ ボックス内であらかじめ設定したマップ ドキュメントを選択し、[OK] をクリックします。



ArcMap のウィザードで指定した出力フォルダ内に ArcPad データが作成されます。ツールを自動化(例えば、ツールのモデル内での利用)するには、[Delete existing files from previous processed projects (オプション)] (以前にプロジェクトの過程で作成された既存のファイルを削除)チェックボックスにチェックが入っていることを確認する必要があります。このオプション機能は、フォルダ内にある以前に作成されたすべての ArcPad ファイルを削除し、新しいファイルを作成します。

- モバイル デバイスへの配置

[Deploy to Mobile Device] ツールも (ArcMap および ArcCatalog の) ArcToolbox から利用することも、モデル内で利用することもできます。モバイル デバイスに配置 (deploy) したいファイル (通常は.cabの拡張子が付く) を選択し、[OK] をクリックします。



モバイル デバイスが Active Sync (Windows XP) または Mobile Device Manager (Vista) に接続していることを確認します。

---

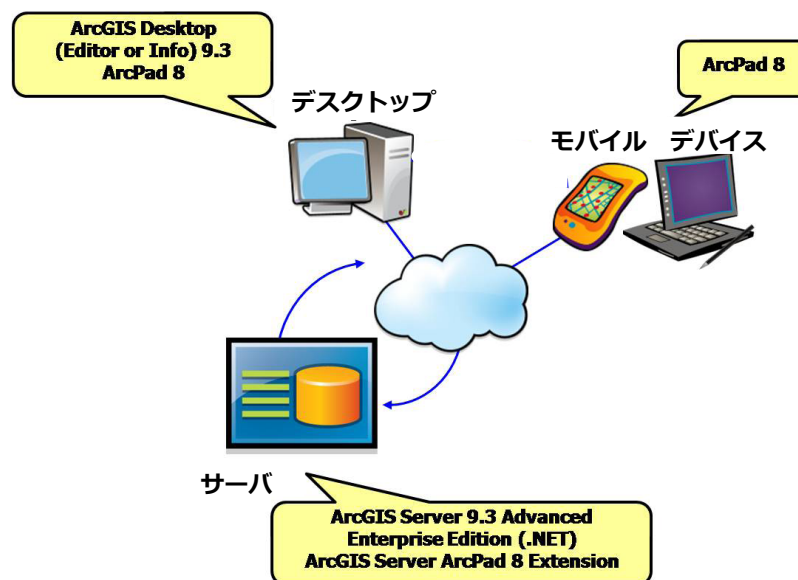
# ArcGIS Server ArcPad エクステンション

## ■ イン트로ダクション

ArcGIS Server ArcPad エクステンションは、ArcGIS Server が ArcPad で利用可能なデータをホストし、インターネット接続による ArcPad とサーバとの同期を可能にします。同期機能の利用には以下が必要になります。

- ☐ デスクトップ環境でのデータのオーサリング
- ☐ サーバ環境でのデータの公開
- ☐ モバイル環境でのデータの利用

以下の図は、それぞれの環境に必要なソフトウェアを示しています



デスクトップには ArcGIS Desktop 9.3 (ArcEditor™ または ArcInfo®) と ArcPad 8、サーバには、ArcGIS Server 9.3 Advanced Enterprise エディション (.NET) と ArcGIS Server ArcPad 8 エクステンション、そして、モバイル デバイスには ArcPad 8 が必要です。

## ■ ArcGIS Server のためのデータのオーサリング

上記の ArcPad Data Manager for ArcGIS Desktop のセクションでも説明したように、ArcGIS Server との連携によるプロジェクトは、ArcMap から開始します。データは、グローバルIDを持ち、そしてバージョン対応していて、エンタープライズ ArcSDE データベースに格納されている必要があります。

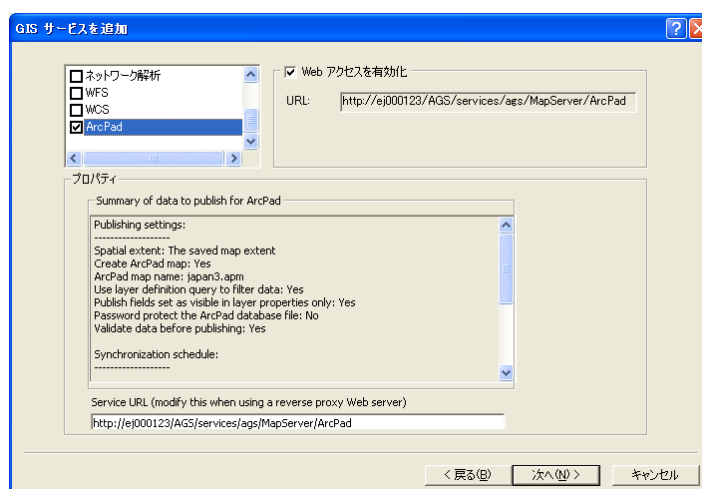
[Author ArcPad Project for publication to ArcGIS Server] (ArcPad プロジェクトをArcGIS Serverに公開するための認証) ツールでは、[Get Data for ArcPad] ウィザードと似ているウィザードとダイアログボックスを使います。[Configure Project for Geoprocessing] ツールと同様、最終的にマシン上にデータを作成しません。データを作成するには、ArcGIS Server に ArcPad プロジェクトを公開する必要があります。

## ■ ArcGIS Server へのデータの公開

ArcPad プロジェクトは、他のマップ サービスの公開と同じような方法で ArcCatalog にて設定します。ArcCatalog 上の ArcGIS Server のショートカットメニューにある [新規サービスを追加] コマンドは、ArcPad サービスの追加を可能とします。



ArcGIS Server への公開は、その他のマップサービスと同様のステップに従って行いますが、ウィザードの [GISサービスの追加] ページでは ArcPad にチェックします。



ウィザードが完了したら、ArcMap または ArcCatalog ですぐに確認することができるマップサービスが作成されます。また、サーバ上に作成されるArcPad ファイルにはzipファイルとcabファイルが含まれます。多くの屋外調査員にデータを配布したい場合は、cabファイルをデスクトップのウェブブラウザからダウンロードし、eメールなどによりデータを配布することができます。zip および cab ファイルは ArcGIS Server 上にある以下のフォルダに格納されます。

¥¥[利用しているGISサーバ名]¥¥arcgisserver¥¥arcpadpublications¥¥DataForArcPad.

## ■ ArcGIS Server からのデータの使用

公開されたデータをモバイル デバイスにダウンロードするには、ArcPad の [インターネット サーバの追加] ダイアログを開きます。このダイアログ ボックスは以前のバージョンからあり、ArcIMS データをマップに追加する際に利用されていて、今でも ArcIMS イメージサービスの追加に利用することができますし、ArcGIS Server ArcPad サービスの追加にも利用されます。(公開されている ArcPad データのある) ArcGIS Server のURLを入力し、リストからデータを選択します。データがモバイル デバイスにダウンロードされ、圧縮が解凍されマップに追加されます。



ユーザは、他のデータと同様の方法でデータを編集することができます。エンタープライズ ジオデータベースと編集を同期したい場合は、ネットワークへの接続を行い(Wi-Fiや電話通信やUSB接続を経由)、ArcPad のメニューから ArcGIS Server とのデータの同期を選択します。ネットワーク接続ができない場合は、同期が行われません。

---

## 以前のバージョンからの改善点

上記に記載された新機能に加え、ArcPad 8.0 では以前のリリースから改善された問題点が多くあります(カッコ内は不具合番号)。

### ■ ArcPad

- 新しいツールバー デザインにより、ArcPad のデフォルト ツールバーがユーザにとってより利用しやすいよう大幅に改善されました。(CQ00168474, CQ00299847, CQ00310557, CQ00310560, CQ00120462)
- ツールバーやツールを簡単に非表示にできるようになりました。(CQ00305383)
- 高解像度に対応する VGA デバイスをサポートするようになりました。(CQ00296413, CQ00261235)
- シェープファイルの投影変換を ArcPad が認識できるようになりました。(CQ00310618)
- コマンドバーを隠すことができるようになりました。(CQ00277272)
- フィーチャクラス レイヤがない場合の [検索] ダイアログが改良されました。(CQ00157959)
- アクティブなボタンの表示がわかりやすくなりました (CQ00165557)
- MENUITEMs モードがカスタムツールバーのリストの最上位に配置されるようになりました。(CQ00168477)
- 選択されている編集ツールが編集ツールバーで正しく表示されるようになりました。(CQ00291721)
- ロック ボタンを他のボタンから離れた場所に配置しました (CQ00299848)
- ハードウェアのボタンが ArcPad のツール ボタンのドロップダウン矢印を制御することに使用できるようになりました。(CQ00300547)
- ArcGIS 9.3 の投影情報は ArcPad 8.0 にインポートされます。(CQ00308242, CQ00310117, CQ00310693)
- 英語版以外の PC での Datum Configuration tool の使用環境が改良されました。(CQ00309366, CQ00310226)
- [表示範囲内のフィーチャのみ検索] チェックボックスが [検索] ダイアログの [クエリ] ページにて認識されるようになりました。(CQ00310002)
- ハードウェアの OK ボタンが ArcPad のダイアロでも 同様に [OK] として扱われるようになりました。(CQ00310661)
- グレースケールの tiff 画像への対応が改良されました。(CQ00310704)
- カラーマップを持たない画像に対するレンダリングが改良されました。(CQ00310706)
- シェープファイル フィーチャのラベリングの扱いが、AXF におけるラベリングの扱いと同様になりました。例: 最大 10 ラベルが一つ以上のレイヤからマップに配置されます。(CQ00310739)



- 
- サブタイプにリンクするドメインフィールド コントロールの選択により、他のドメインフィールド コントロールが更新されるようになりました。(CQ00310276)
  - サブタイプやドメイン フィールドを含むラベルにおいて、コード値ではなく「説明」が表示されるようになりました。(CQ00309970)

## ■ エクステンション

- エクステンション/アプレット ディベロッパーでも ArcPad の内部アイコンが利用可能になりました。(CQ00163929)
- Vectronix Vector 1500 GMD レンジファインダーからのネガティブ インクリネーション情報をサポートするようになりました。(CQ00307656)
- カメラのサポートに関する改良により、メモリ使用によるエラーを減少することができるようになりました。(CQ00310452)
- シェープファイルへのフォト レイヤのエクスポートにより、ArcPadがクラッシュすることがなくなりました。(CQ00310514)

## ■ GPS/レンジファインダー

- GPS ステータスバーの色の 変化でシグナルの強さを表示するようになりました。(CQ00125359)
- GPS カーソルの再表示実行の頻度が改良されました。(CQ00146517, CQ00309568)
- GPS ポジション ウィンドウでの変更が、設定に保存されるようになりました。(CQ00209852)
- 精度に関するお好みのパラメータの選択、リアルタイム モードなどの GPS クオリティの設定が一般化されました。(CQ00217834, CQ00309577, CQ00309584)
- GPS ポジション ウィンドウのマップ投影座標でより多くの少数位の表示ができるようになりました。(CQ00231140)
- 9.5 から 10km/h の間の GPS SOG の表示が改良されました。(CQ00242923)
- GPS ポジション ウィンドウが、デスクトップ上では拡張表示、またモバイル デバイス上ではフルスクリーンで表示することができるようになりました。(CQ00291781)
- 最大 PDOP と EPE に 9 以上の値を設定することができるようになりました。(CQ00307966)
- レンジファインダー イベントに対する音を無効にすることができるようになりました。(CQ00310300)

---

## ■ ArcPad Data Manager

- 基本的な編集フォームが自動的にチェックアウト レイヤ用に生成されるようになりました。(CQ00310268)
- 基本的な読み取り専用フォームがコピーされたフィーチャクラス用に自動的に生成されるようになりました。(CQ00211940)
- [Get Data For ArcPad] ウィザードで ArcMap から接続したモバイル デバイスに対してデータの配置を行うことができるようになりました。(CQ00309274)
- ArcMap や ArcToolbox で再度利用できるように [Get Data for ArcPad] の構成を保存することができるようになりました。(CQ00310078, CQ00306955, CQ00306954)
- コピーされたレイヤを読み取り専用または編集可能にすることができるようになりました。(CQ00310207)
- apm ファイルのデフォルト名に MXD ファイルのマップ名と同様の名前を使用するようになりました。(CQ00310207)
- [Get Data for ArcPad] で [copyout all] をオプションとして利用できるようになりました。(CQ00310220)
- Image Server に格納されている画像が Data Manager を使用しチェックアウトすることができるようになりました。(CQ00309863)
- スタンドアロンのグラフィックスを ArcPad へエクスポートするためのツールが追加されました。(CQ00310289)
- [ArcPad Data Manager] ツールバーによる GlobalID と GUID 属性のチェックアウトとチェックインプロセスに関する対応が改良されました。(CQ00310181, CQ00310849)
- シェープファイルのシンボルのエクスポート時に起こるエラーが改善されました。(CQ00310249)
- チェックアウトされるフィーチャクラス間で共通するサブタイプ フィールド名がそれぞれ正確に表示されるようになりました。(CQ00310309)
- 一重引用符(‘)を持つ関連テーブルドメインのチェックアウト時に起こっていたクラッシュが改善されました。(CQ00310165)
- エイリアス名にスペースが使用されたときのチェックアウト エラーが改善されました。(CQ00309549)
- Maplex Label Engine のラベルが含まれる場合に [Get Data For ArcPad] ツールで起こっていたクラッシュが起きなくなりました。(※Maplex ラベルは ArcPad でサポートされません)(CQ00310026, CQ00310320)
- グラフィックスのインポート時に、既存のグラフィックスが存在する場合、上書きすることをお知らせするようになりました。(CQ00310505)
- JPEG2000 のチェックアウトが改善されました。(CQ00310409)

- 
- シンボルの設定のために複数値がレイヤ定義にエクスポートされるようになりました。(CQ00309990)
  - グラフィックスを ArcMap にインポートする際のポリゴンへの変換が改良されました。(CQ00309527)
  - ジオデータベース ラスタの TIFF へのチェックアウトが改良されました。(CQ00310548)

## ■ ArcPad Studio とカスタマイズ

- 新しいツールバーのデザインになり、ユーザとカスタマイズ可能な組み込みツールバーとの相互作用が大幅に改善されました。(CQ00168474, CQ00299847, CQ00310557, CQ00310560, CQ00120462)
- ツールバーのサブメニュー使用時にキャプションが表示されるようになりました。(CQ00305904)
- 複数のフォーム間を行き来する際に SIP (ソフト インプット パネル) が、不意に閉じたり開いたりしなくなりました。(CQ00309520, CQ00293278)
- プログラミングによるトラックログへのアクセスが可能になりました。(CQ00310895)
- TOOLBUTTON がアクティブでない時、その TOOLBUTTON の MENUITEM へのアクセスが可能になりました。(CQ00178103)
- スクリプトにより MENUITEM インスタンスを作ることが可能になりました。(CQ00310438)
- SORT = False の際に、ComboBox に間違った値が表示されることがなくなりました。(CQ00309741)
- 複数ページ フォームの利用時に、Required fields (必須属性フィールド) が確実に機能するようになりました。(CQ00310338)
- カスタマイズによるメニュー アイテムに対してランタイムでプログラムの変更を行えるようになりました。(CQ00239534)
- 範囲ドメインを含む DOMAINFIELD コントロールが、QUERYFORM 上で2度以上利用できるようになりました。(CQ00310270)

## ■ Object Model

- Multimedia.CaptureStill メソッドがエラーを返すことがなくなりました。(CQ00309958)
- Recordset::MoveFirst がエラーを起こすことがなくなりました。(CQ00310020)
- Recordset::Shape.Parts が AXF ライン/ポリゴン フィーチャでも利用可能になりました。(CQ00310834)
- RecordSet.AddNew (ポイント) は、AXF レイヤの新規ポイント レコードに ポイントの地理を適用するようになりました。(CQ00310359)

- 
- Edit Form が表示されていないときに、OnFeatureAdded イベントがマップ オブジェクトで起動するようになりました。(CQ00309664)
  - シェープファイルと同様、AXF レコードセットに対して Bookmark, BOF, EOF, Move, MoveFirst, MoveNext, MovePrevious, MoveLast, FindNearestXY プロパティとメソッドが装備されました。(CQ00310106)
  - ToolItem.Name がツール アイテムに空のテキストを返すことがなくなりました。(CQ00309580)
  - XToolItem.Count が改善されました。(CQ00310030)
  - SetForegroundWindow はブール型メソッドとしてシステム オブジェクトに追加されました。(CQ00239475)
  - DrawShape メソッドで FillStyle = 1(塗りつぶしなし)を使用するようになりました。(CQ00310112)
  - Setting Form.Fields が OnOK イベントで Form または Page の RecordSet を更新するようになりました。(CQ00310710)
  - Application.Quit でタスクバーに ArcPad アイコンが残ることがなくなりました。(CQ00178035)